

1 事業名：雑草イネ撲滅実証モデル事業

要約

- ・前年までに雑草イネが多発生したほ場（5ヶ所）で除草剤体系処理を行い、その効果を確認した。
- ・本年、除草剤体系処理を行ったほ場では、前年に比べて雑草イネの発生を軽減することができた。
- ・3年継続で防除対策を実施したほ場では、雑草イネの発生はみられなかった。
- ・このことから、除草剤体系処理の有効性が確認できた。

担当者：松本農業改良普及センター 西沢、谷口
J A あづみ 曾根原、唐澤、保尊、赤羽、逸見、下田

1. 課題設定の背景と目的

市内で増加している雑草イネ（赤米）を撲滅するため、現地実証モデルほ場を設置し、雑草イネ対策として推奨する除草剤の体系処理を実施し、その効果を確認した。

2. 調査研究の内容

(1)実施時期 平成26年4月～10月

(2)実施地区 安曇野市豊科・穂高・三郷・堀金地区 計5ほ場

(3)調査方法

- ・前年までに雑草イネの発生が多かった5ほ場において、除草剤の体系処理(①田植え直後、②その10日後、③さらにその10日後の計3回)を行い、その効果を確認した。
- ・供試品種：コシヒカリ
- ・栽培方法：移植

(4)ほ場概要と除草剤体系処理（実証区）の実施状況

ほ場	面積(a)	田植え日	初期剤 (下段は散布日)	初中期剤 (下段は散布日)	中期剤 (下段は散布日)
豊科1	20	5/17	エリジャンジャンボ 5/18	スパークスター粒剤 5/29	ザーベックスSM粒剤 6/7
豊科2	20	5/18	エリジャンジャンボ 5/19	テラガードLジャンボ 5/29	ナイスミドル1キロ粒剤 6/9
穂高	29	5/6	エリジャンジャンボ 5/8	スパークスター1キロ粒剤 5/20	ナイスミドル1キロ粒剤 5/29
三郷	30	5/13	アルハーブフロアブル 5/14	ポッシブルジャンボ 5/24	ナイスミドル1キロ粒剤 6/3
堀金	30	5/17	エリジャンジャンボ 5/19	スパークスター粒剤 5/29	ナイスミドル1キロ粒剤 6/10

※各ほ場には、実証区との比較のため、25㎡の無処理区（除草剤体系処理を実施しない部分）を設置した。

※「豊科2」ほ場は、平成24年の田植え後に雑草イネが多発したため、5月下旬に作付けを中止し、防除対策として秋までに3回耕起した。平成25年は除草剤体系処理を実施し、雑草イネの発生は全く確認されなかった。（継続試験）

3. 結果の概要及び考察

(1) 雑草イネ調査

ほ場	区	発生個体数（7月3日）		発生個体数（8月22日）		発生個体数（合計）	
		本数 (本/a)	同左比率 (%)	本数 (本/a)	同左比率 (%)	本数 (本/a)	同左比率 (%)
豊科1	実証区	0.4	3	0.2	—	0.6	4
	無処理区	16	100	0	—	16	100
豊科2	実証区	0	—	0	—	0	—
	無処理区	0	—	0	—	0	—
穂高	実証区	0.4	2	0.3	—	0.7	3
	無処理区	24	100	0	—	24	100
三郷	実証区	0.7	2	0	—	0.7	2
	無処理区	32	100	0	—	32	100
堀金	実証区	0.8	—	0.1	—	0.9	—
	無処理区	0	—	0	—	0	—

(2) 考察

- ・いずれのほ場においても、実証区の雑草イネ発生個体数は1a当たり1本以下と僅かな本数であり、除草剤の体系処理の効果が確認できた。
- ・「豊科2」ほ場は、前年に引き続き本年も雑草イネの発生は全く確認されなかった。

4. 成果の活用と今後の方向性

- ・本調査研究の結果を関係者及び水稲生産農家へ広く周知し、雑草イネ対策の一助とする。
- ・特に雑草イネ発生農家で除草剤体系処理を実施していない農家への啓発、指導を徹底する。



雑草イネ防除対策講習会（4月28日）三郷
関心を持つ農家が多数集まった



雑草イネ抜き取り調査（8月22日）
指導関係者総出により全調査ほ場で実施した